五雲会

二〇一九年十月十九日（土）
開演 十二時（正午）
開場 十一時
於 宝生能楽堂

12:00

敦盛

シテ 辰巳和磨　ツレ 金井賢郎　木谷哲也　藤井秋雅

ワキ 野口能弘
間 善竹富太郎
後見 山内崇生　小林晋也
地謡 田崎甫　金森隆晋　辰巳大二郎　内藤飛能
大鼓 大倉慶乃助
小鼓 清水和音
笛 小野寺竜一
渡邊茂人　辰巳満次郎　高橋亘　和久荘太郎

13:30

御茶の水

大蔵基誠　大蔵彌右衛門
大蔵教義

〈休憩十五分〉

14:05

井筒

シテ 大友順

ワキ 福王和幸
間 大藏彌太郎
後見 藤井雅之　水上優
地謡 今井基　川瀬隆士　佐野弘宜　佐野玄宜
大鼓 安福光雄
小鼓 住駒充彦
笛 栗林祐輔
小倉健太郎　武田孝史　金森秀祥　高橋憲正

〈休憩十五分〉

16:00

葵上

シテ 澤田宏司　ツレ 藪克徳

ワキ 大日方寛
ワキツレ 野口琢弘
間 善竹大二郎
後見 宝生和英　東川尚史　上野能寛
地謡 朝倉大輔　金野泰大　金森良充　當山淳司
大鼓 亀井洋祐
小鼓 森貴史
太鼓 桜井均
笛 熊本俊太郎
小倉伸二郎　今井泰行　野月聡　亀井雄二

終演予定 十七時頃

演目の解説

能「敦盛」（あつもり）

源氏方の武者「熊谷直実」は、平敦盛を自らの手にかけたことに深い思いを抱き、出家して蓮生法師となり、敦盛の菩提を弔うために一の谷に向います。その音と共に草刈の男達が現れ、「草刈の笛木樵の歌」の話をし、一人の男が残ります。残った男は蓮生に弔いを頼み、敦盛の霊であると仄めかして消えてしまいます。その夜在りしめ姿で現れた敦盛は、合戦前夜の陣中の有様を見せ、自らの最後を語って蓮生に感謝し、後生を託して去って行きます。

狂言「御茶の水」（おちゃのみず）

お寺の住持が、新発意に清水へ水を汲んでくるようにお命じまして、新発意は断りますが、仕方がないので住持は門前の伊茶に思いをいたします。以前よりの新発意はあとをつけ、水を寄ませていたお願いをしまして、伊茶に求愛をしかけ戯れ、小歌まじりに住持を心配した伊茶に思いを寄せ